

## 「関門航路周辺海域における土砂処分場計画」策定に係る 連絡会（第3回） 議事概要

1. 開催日時：平成22年8月25日（水）10:00～11:00
2. 開催場所：国土交通省 九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所

### 3. 出席者

#### （1）地方公共団体

西山 隆詞	福岡県 県土整備部 港湾課
横田 幹生	福岡県 環境部 自然環境課
宮本 博和	福岡県 農林水産部 水産局 漁業管理課
溝口 浩	北九州市 環境局 環境監視部 環境保全課
大庭 俊一	北九州市 産業経済局 農林水産部 水産課
住田 育生	北九州市 港湾空港局 整備部 計画課
有松 正一	行橋市 市民部 環境課
本田 一行	苅田町 産業建設部 交通商工課

#### （2）関係者

鈴木 崇弘	九州地方整備局 港湾空港部 港湾計画課
山川 浩	九州地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課
森木 亮	九州地方整備局 関門航路事務所
大池 義忠	九州地方整備局 苅田港湾事務所
宮地 豊	九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所

#### 4. 議事メモ（○；自治体、●；事務局）

##### （1）資料－1 土砂処分場計画策定の進め方およびスケジュール

特になし

##### （2）資料－2 意見公募（パブリックコメント）の概要及び結果

○自治体 資料の説明の中で、将来的には埋立てをしない土砂処分方法についても検討していきたいという発言があったが、具体的な対策方法はあるのか。

●事務局 航路の埋没防止や浚渫土の脱水処理による減容化等が考えられるが、現段階では技術面やコスト的な課題も多いため、今後も技術開発を進めながら検討していきたいと考えている。

##### （3）資料－3 技術専門委員会（第2回）の報告

○自治体 水産関係については、ステップ2以降で評価項目に追加するということが。

●事務局 水産関係の評価項目については、ステップ1で漁業権区域等への影響評価として取り入れている。ステップ2では、水産関係の行政意見等も伺いながら検討を進めていきたいと考えている。

○自治体 ゾーンⅡについて、曽根干潟の真正面にあるが、水深が他のゾーンに比べて深いという観点から潮流に影響が少ないと判断されたのか。

●事務局 潮流変化による曽根干潟への影響評価については、潮流の現況再現シミュレーション結果等より行っている。流れの向き、大きさおよび位置関係などを総合的に評価し、ゾーンⅡの方がゾーンⅠおよびゾーンⅢと比較すると、影響が小さいと判断した。

○自治体 ゾーン選定に関わる総合評価について、潮流変化が強調されているが総合的な評価となる記述にした方が良いと思う。また、総合評価で潮流変化を一番大きな理由としているのは、ちょっと説得力に欠けるような気がする。

●事務局 総合評価の記述については、技術専門委員会でも同様な指摘を受けており、海面消失面積の評価等も追記したいと考えている。

また、潮流変化による曽根干潟への影響については、技術専門委員会の場において、技術的・専門的知見から検討結果の妥当性について確認して頂いている。

(4) 資料－4 土砂処分場設置海域の選定に関する公表方法

- 自治体 その他の設置可能な公共施設等について、漁協事務所へのポスター等の掲示も検討していた方が良いのではないか。意見公募については、漁業関係者の意見が反映されていないのが懸念されるし、1ヶ月実施した結果としては、回答された意見の数が少ないように思う。高齢者の方はインターネットに馴染みが無い方も多いので、配慮していただきたい。
- 事務局 テレビや新聞の報道でも話題として取り上げられており、ある程度周知されていると考えているが、今後も引き続き情報提供に努めていきたい。また、具体的な掲示場所、周知方法などあれば、アドバイス等頂きながら検討を進めていきたいと考えている。
- 自治体 ステップ1の検討結果を公表する際は、どのような方法を想定しているのか。また、ステップ1の検討結果の公表と合わせて、ステップ2の進め方についても情報提供した方が良い。
- 事務局 結果の公表は、ポスターおよび冊子を準備しているが、冊子等を設置する場所が確保しづらい公共施設等もあるため、個別に対応していきたいと考えている。また、ステップ2へのつながりについても把握できるよう公表資料を作成したい。

(5) その他

- 自治体 水産の観点から、埋立てによって消失する海面に対するミティゲーションは今の段階で検討しないのか。埋立てによって海面が消失する一方で、新たな環境が創造されるといった説明を行えば、環境に興味がある方や漁業者の意見が出てくるのではないかと。
- 事務局 ステップ1では、ゾーンの選定段階であるため海域全体の特性を評価項目として選定を行った。今後、ゾーンが選定された段階でミティゲーションについて検討を行いたい。
- 自治体 意見公募のやり方として、意見の回答数に関わらず、募集期間を設定して、その中で集まった意見を整理し、次のステップに進んでいくことになるのか。
- 事務局 今回の意見公募の実施期間の中で、意見の回答数としては少なかったが、事業の必要性や環境面等に対するご意見を頂くことが出来たと考えている。この結果を踏まえて、次のステップに進むこととした。ステップ2についても基本的には同様の進め方になると思うが、住民参画のあり方については、次の連絡会で連絡調整させて頂きたい。